

## 昭和43年度野外観察指導研究会記録

### 氷ノ山採集記

今年の学会の夏季行事としての採集会が宍粟郡波賀町戸倉で8月17日より19日の2泊3日の日程で開かれた。このときの講師としては京都大学、村田源先生(植物)、兵庫女子短大、川崎正悦先生(植物)、神戸女子大学、堀田満先生(植物)、頌栄短大、福岡誠行先生(植物)、神戸大学、奥谷禎一先生(昆虫)の諸先生を迎えいろいろとご指導をいただいた。

第1日 午前9時国鉄姫路駅前集合、市バスを貸切り戸倉へ、戸倉山荘に正午に着き、まず休憩、昼食の後、宿泊の部屋割り、その後広間に集まり講師の諸先生の紹介、日程の発表などがあった後、午後2時ごろより採集に出かける。

大森神社境内より道谷スキー場を経て戸倉山荘に帰るコース、谷川にそってウワバミソウ、ツリフネソウ、ウリノキ、オランダ、ジュウモンジシダなどがある。杉の伐採された所から急坂を登りきると道谷スキー場。この中の湿地にヒロハドジョウツナギ、コオニユリ、ハナヤスリなどが見つかる。途中で村田先生がオオアブラスキのセット標本を作られるのを見学する。道谷スキー場を下り、部落にでるとミウガが岬にあり花が咲いていた。

夜は堀田先生より、北海道の植物やキスゲの類、スカシユリの変異のスライドを見せていただき、これらの分類についての話を聞く。このあと奥谷先生から北欧のスライドを見せてもらい、これらの自然や昆虫の話を、そして最後に広島大学院生の柏谷君より南極探検隊員として参加したときの南極の自然や苔などのスライドを見せてもらう。近くこのフィルムは文部省に渡してしまうとか、なかなか貴重なスライド。楽しく有意義なときを過ごし、午後10時頃就寝。

第2日 午前7時過ぎに戸倉山荘を出発し、今回の目標である氷ノ山登山。マイカーで来られた先生方の好意により一部の人たちは氷ノ山登山口近くまでピストン運転で運んでいただく。戸倉山荘は海拔約600m。1.5kmばかり国道29号線を登って右折、約6kmほどトラック林道を登ると海拔1000mの登山口に達する。大きなリュックを持ち大股に全行程を歩く人もいる。

登山口よりは尾根づたいで比較的らかなコース。下の方は伐採がおわり、一部山焼きをした所もある。クロバナヒキオコソンの群落を通りぬけるとネマギリダケの開花枯死した所にでる。ブナ、ミズナラの林床にもネマギリダケの枯死したものが続く。登山道の両側にヤマアジサ

イ、ユキザサ、ホウチャクソウ、クマノミズキ、ニガキ、ハウチワカエデ、ホウノキ、オオカメノキ、ミヤマシキミと次々あらわれる。

三ノ丸近くなると今年開花結実したネマギリダケの群落になるが、実は殆んど落ちてしまい採集困難、このササを刈りとった所にはノリウツギが一面に白い花をつけて印象的である。ササの下にはネズミの食い荒したあと、またその糞が無数にちらばっている。

三ノ丸頂上に11時頃着く。ダイセンキョロボク、セトウチイボクなどがある。ここから引き返すという者、また一ノ丸(氷ノ山頂上)へ行く者にわかる。小休止の後一ノ丸へ出発。途中二ノ丸の所にスギの天然林がある。湿地がありコバイケイソウなどが見られる。

頂上より眺めるとネマギリダケは殆んど開花枯死しているが、一部ではまだ緑葉をつけたネマギリダケ群落があり、その所々に黒々とブナが点在している。

一ノ丸の少し下った所に古生沼があり、ここにはモウセンゴケ、ミズゴケなどがあるが、特にヤチスゲが多い。ここから千本杉の方へ行く者、また頂上にもどり岩場をさがす者、それぞれ思い思いに採集を続けるが、午後2時前には一ノ丸を出発して下山する。戸倉山荘には、早い者は4時頃に帰着、6時過ぎには全員揃う。

夕食後、食堂で村田先生より近畿の植物について、また福岡先生よりウツギの分類について講演がある。採集品の整理、また講師の先生方に名前をたずねたり、疲れを知らぬ熱心さにおどろく。

第3日 音水溪谷採集の予定であったが営林署から林道工事のため遠慮してほしいとの要望があり、予定を変更して赤西溪谷の方へ行く。7時すぎのバスで赤西口下車、谷川に沿って赤西宿泊所近くまで採集に行く。赤西の谷川の東は国定公園になるため今後伐されずに残るといふことで、大変結構なことである。午後1時頃赤西口に帰り、貸切バスで姫路へ。

今回の参加者は65名、盛會に終る。ご指導下さった講師先生に厚くお礼申し上げますと共に、会の企画、進行などいろいろお世話下さった葺合高校の先生方、また特に本部の北条高校の先生方に感謝いたします。

最後にマイカーで参加下さった先生方は、第2日目の氷ノ山登山には会員の方々の輸送に大変お世話になりましたことをお礼申し上げます。(藤本義昭 記)